

第4回ワークショップのまとめ

今回のワークショップでは、これまでの3回のWSで出された意見を基にまとめられた骨子案について、個別の項目ごとに内容を確認しながら、最終的な原案づくりへ活かすための参考意見をいただきました。

「基本的な考え方」について

主な事項	共創についての考え方を明確にし整理する。 共創により社会変化への対応力を確保、強化する。
指針に盛り込む内容	自主性、自立性を尊重する。(先進性は?) 適切な評価と対価で活動を育成するでは。 中間支援組織の育成。 公正さを保つための情報共有。 市民活動の底辺拡大?(行政よりもNPO側?)と活動の発展・促進

指針の位置づけはどうか。	今後NPO活動を推進するための指針として理解している。 指針の見直しまでの年数はどうするのか。 基本的な考え方と具体的な施策の整合性は取られていないが、取った方がいいので
--------------	---

職員の心構えについて	本来行政があたりまえに取り組むべき部分であり、今回の指針には馴染まないのでは。
------------	---

先進性とは何を意味するのか	先進性を尊重しますの表現ではなく、先駆性と表現してはどうか。 今までに無かった事業(未開発業務)に対して踏み込んでほしい。
項目が重なっていないか。	先進性と先駆性の違いは、語句の意味は分かるが意味合いをはっきりさせるべき。 先進性と社会変化への対応力の確保と重なるのでは。他にも重なっていないか。

底辺拡大と活動の発展を目指し	行政側というよりNPO側の問題では。 中間支援がすべきことなのか市がすべきことなのか明確にしてほしい。
----------------	--

調整役の役割を果たします	調整役の考え方は従来の形であり、前文に自主性を謳うのであれば「調整役」の表現は要らないのでは。 「行政が〇〇します」というのは共創の理念からはずれていないか。 積極的な関わりでなく当面の手助けという活動を後押しするような考え方では。 これまでの活動で行政が調整をしてもらう事の必要性を実感したし、今後もそうあってほ 中間支援的な組織を育成していきますという項目が必要では。
--------------	--

適切な支援	サービスの必要性和事業の収益性を考慮するのであれば、適切な評価と対価で活動を 育成すると表現すべきでは。 レベルがひとつ上の内容ではないのか。
-------	---

情報公開の徹底につとめます	この情報開示は行政側だけなのか。そうでないなら、促進しますという表現ではおかしい 〜
---------------	---

	指針は行政が何をしていくかという部分であり、全体的に見てNPO側がどうするかという 部分は要らないのでは。 骨子の内容が多すぎる。 ①社会変化への対応力(先駆、先進性) ②自主性、自立性 ③適切な評価・対価 ④中 間支援組織の育成 ⑤情報公開ぐらいにまとめてみてはどうか。
--	--

「具体的な施策」について

主な事項 指針に盛り込む内容	市民・事業者・行政への啓発 市民活動団体との共創事業におけるルールづくり 市民活動・事業者・行政の連携促進 人材育成・場所・者に対する支援、市民活動の財政基盤の強化 情報共有化の推進 市民活動支援センター及び市民活動団体による中間支援組織の強化 共創（協働）で行う事業に対する評価のシステムづくり
-----------------------	--

「検討します」の表現でなく、具体的なシステムについて盛り込んで欲しい。
施策を整理してから、基本的な考えをまとめてはどうか。
基本的な考え方とのつながりが分らないと、施策分けも難しい。
「1啓発」と「2ルールとづくり」は「3連携促進」に集約できるのでは。
指針の骨子案文は課題の説明は削除（簡略）していいのでは。
課題が無いと指針が分かりづらくなるか。
「～役を担う」というのは、行政ではもう無理ではないか。それよりも中間支援組織を育てることが急務では。
施策を整理してから、基本的な考えをまとめてはどうか。
全国的にも中間支援組織に委ねている部分が多いのでは。